

未来教育 1

【プロジェクト学習とポートフォリオ】

文部科学省採択事業「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」

『課題解決能力の獲得を可能とするプロジェクト学習とポートフォリオ
教員研修プログラムの開発～コーチング指導による「コンピテンシー育成」
を目指して～』

報告書（H22）より

シンクタンク未来教育ビジョン

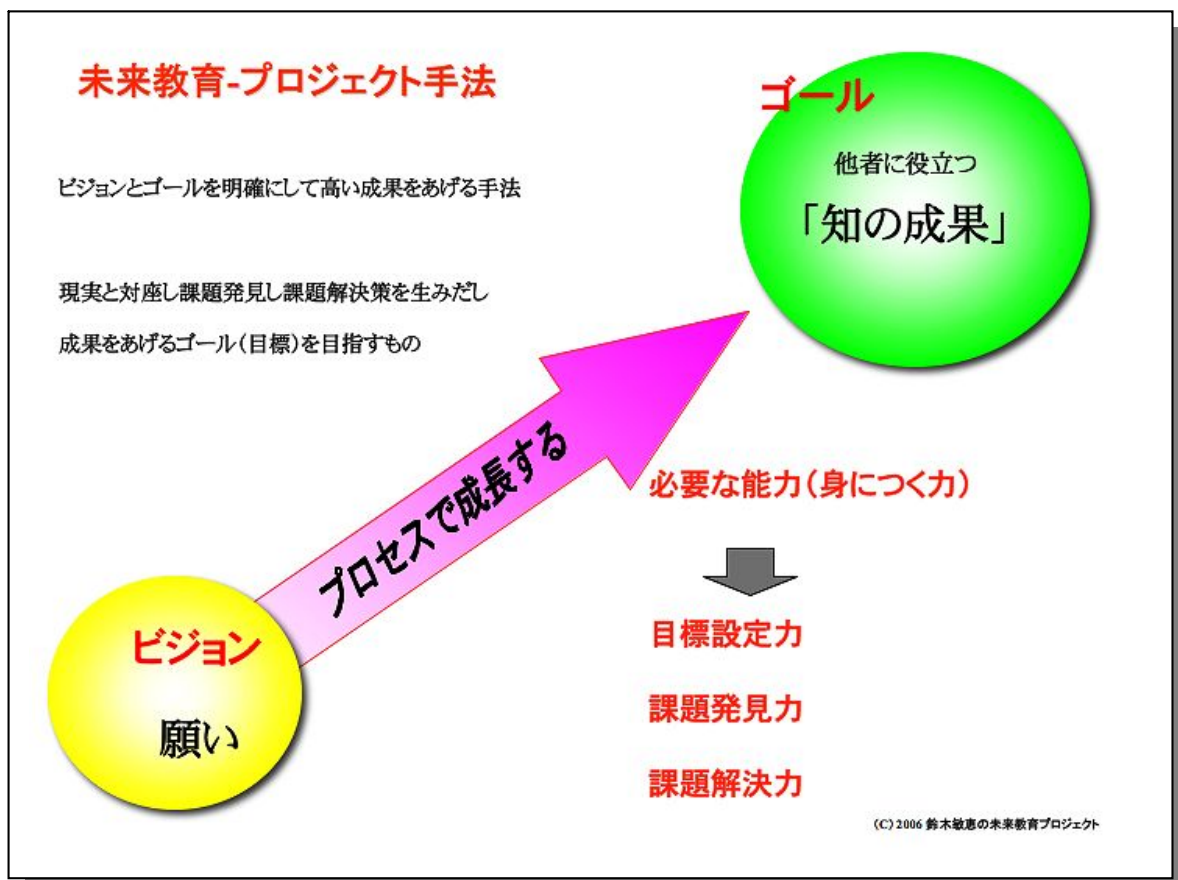
第 章 ポートフォリオとプロジェクト学習について

）ポートフォリオとプロジェクト学習とは

未来教育の価値—知の成果物

未来教育とは意志ある学びを哲学とし、プロジェクトの考え方やセオリーを学習に取り入れたものです。ビジョン（何のために）とゴール（何をやり遂げたいのか）を明確にして、常に意識しながら向かいます。プロジェクト学習は、意志ある学びを叶える新しい教育手法のプラットフォームとして教育界、医療界、自治体などの課題解決力の人材育成や目標実現手法として広く実践されています。

最後に、発表やプレゼンテーションで终えずに、これまでの活動や情報を一元化したファイル=「元ポートフォリオ」を再構築して他者に役立つ「知の成果物」を生み上げます。それは提案書やガイドブックのように実際に他者へ活きるものです。「他者の役に立つ成果物」を学習の成果として作成する経験で、根拠ある情報を生かし「知」を構築する力を高めます。さらに他者の役に立つ成果物なので、学習者は意志を胸に、モチベーションをもってゴールへ向かっていくことを叶えます。

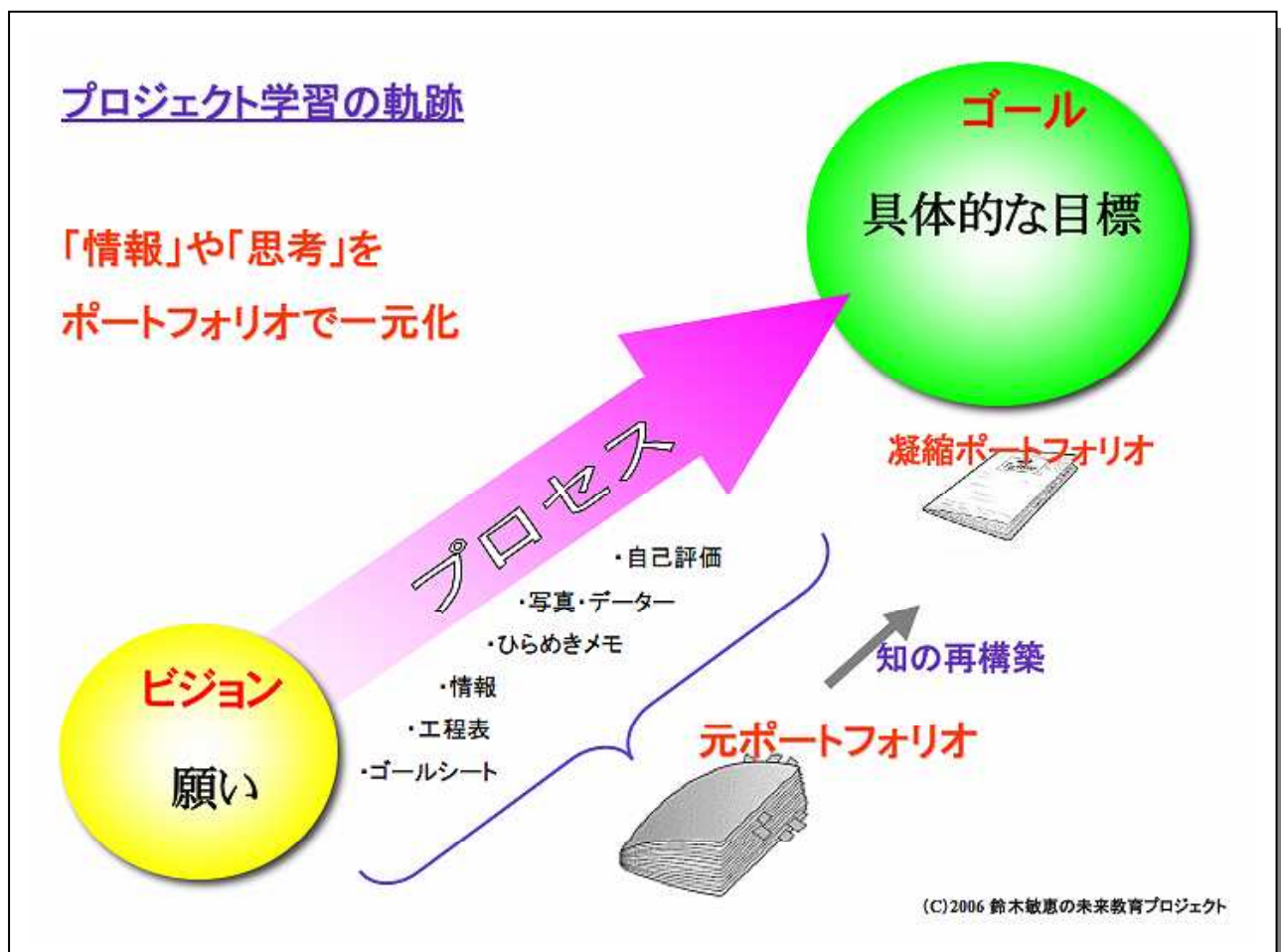


■ ポートフォリオとプロジェクト学習の関係

プロジェクト学習はポートフォリオと両輪で意志ある学びを果たします。学習者はゴールへ向かうプロセスでうまれたものや手に入れたものなど学習の軌跡をポートフォリオファイルに一元化していきます。ゴールシート(目標を書いた紙)やインターネットから得た情報、自分が考えた課題解決策などなどです。それらを散逸することなくポートフォリオにどんどん入れながらゴールへ向かうのです。

目標に至る軌跡が一元化されたポートフォリオが存在すること俯瞰しながら戦略的に進めることができます、それはクオリティの高い目標達成を叶えます。

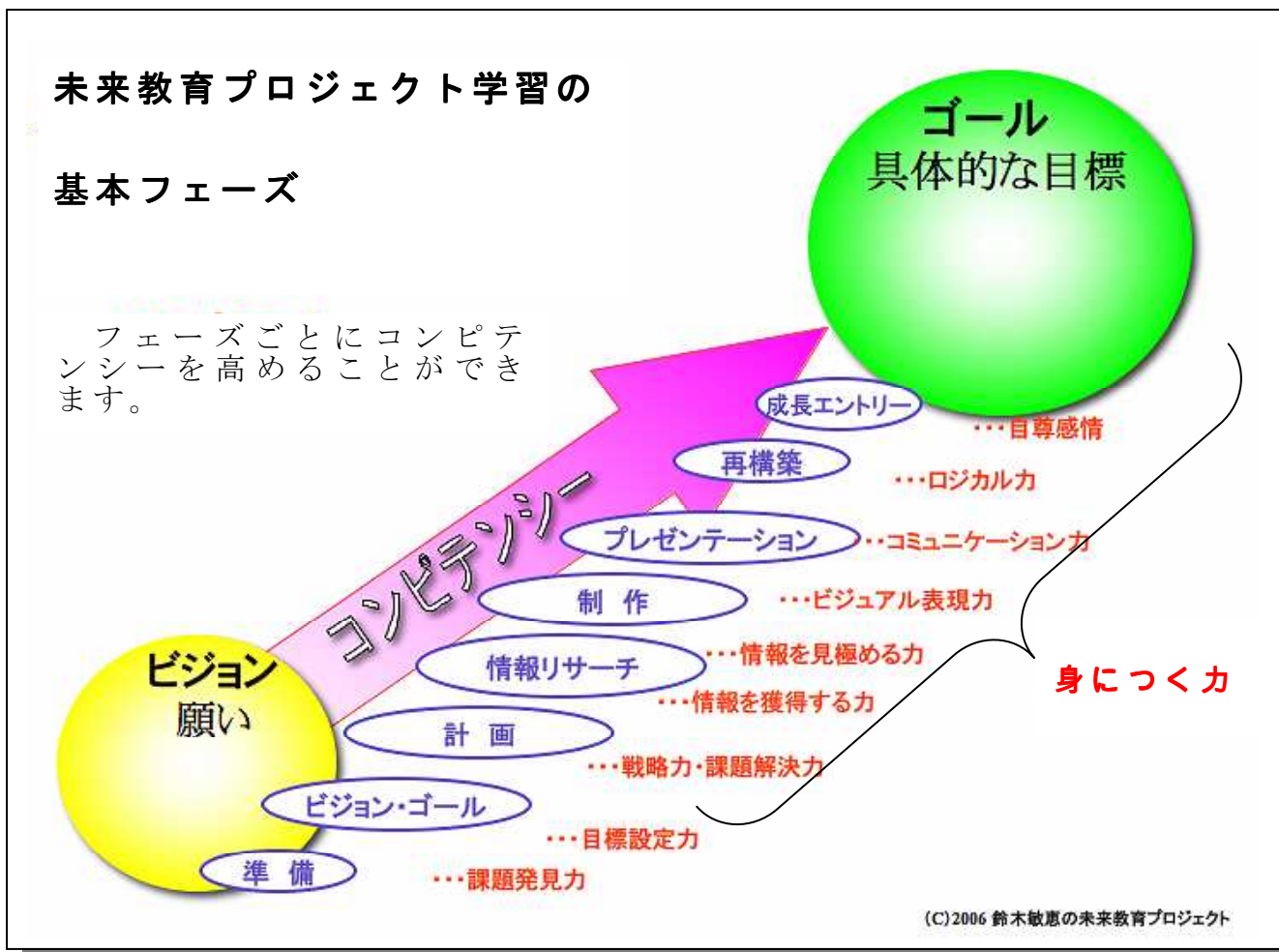
ポートフォリオで目標への進捗が見えることも果たします、またやりっぱなしで終えず最後に確実な成果(凝縮ポートフォリオ)を生むことができます。ポートフォリオには、課題発見から課題解決までが時系列で入っていますので思考プロセスを可視化することもできます。



■ プロジェクト学習の「基本フェーズ」と「身につく力」

未来教育プロジェクト学習は、ゴールに至るプロセスに明快なフェーズをもっています。「準備」「ビジョン・ゴール」「計画」「情報リサーチ」「制作」「プレゼンテーション」「成長エントリー」というフェーズの一つひとつで、新しい学力ともいえるコンピテンシーを習得することができます。

各フェーズでは、「準備」では目の前の現実から課題を見いだす力（課題発見力）、「ビジョン・ゴール」では、自分の目標を決めることができる設定力、「計画」では目標到達を叶える戦略力、「情報リサーチ」では情報を見極め獲得できる力と、その情報をもとに自ら考え、課題を解決する力、「制作」「プレゼンテーション」では多様なメディアで表現する力とコミュニケーション力、そして「成長エントリー」では自らの成長を自覚することとなり、自尊心感情も高まります。



プロジェクト手法による-課題発見と課題解決の手順-

準備

1. その題材を意識する

↓

ビジョン
ゴール

2. 「課題」が浮上する

↓ 「課題」=○○は問題だ

3. 「課題」をビジョンとゴールに昇華させる

↓ 「目的(ビジョン)」=○○にしよう

「目標(ゴール)」=○○を提案する!

計画

4. 目標到達の戦略を考える

↓ どのような情報を獲得する必要があるか

5. 「課題解決」に必要な「原因究明」のための情報獲得する

原因を明確化して解決への探りを得る

《一般情報》を集める

・基本知識、類似事例、過去事例など得る

《固有情報》を獲得する

・なぜそれが起きるのか現場を観察する

《反応情報》行動して情報を獲得する

・対応しながら情報を得る

情報リサーチ

6. ポートフォリオにいった情報を俯瞰する

↓ ・獲得知を総合化する→「課題」の解決策が見えてくる

7. 課題解決策-アイデアをすべて出し切る(拡散)

↓ ・可視化、多面的、こうしてみたら、ああいうことも

8. 課題解決策-具体性ある策に絞り込む(収束)

↓ ・その状況下で出来る最も有効な解決策を決める

10. 課題解決策をプレゼンテーションする

↓ ・方法、エビデンスを添える

制作

11. 課題解決策を伝える提案書を作成する

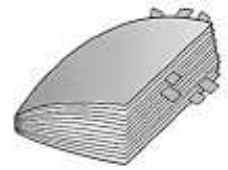
↓ ・プロジェクトの成果物「凝縮ポートフォリオ」

プレゼン

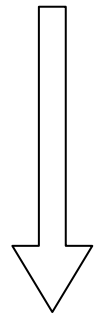
12. 成長確認(自己評価.他者評価)

・能力、考え方、スキル等

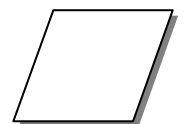
再構築
成長確認



元ポートフォリオ



凝縮ポートフォリオ



成長エントリー

■ 「ポートフォリオ」で思考プロセスが見える

ポートフォリオ (portfolio) を辞書で引けば、「紙ばさみ、書類鞆、あるいは作品集」とあります。そこに共通しているのは、バラバラの情報を一元化するもの (こと=概念) です。情報は一元化すると「価値」を生じます。

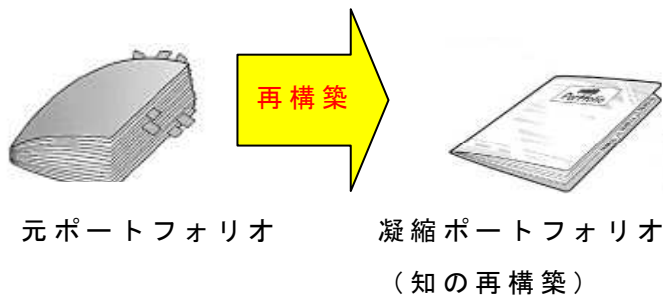
例えば、建築家やカメラマンなどがもっている作品集には、これまでの成果や実績、やってきたことがわかる写真や資料などが入っていますので、それを見ればその人の能力やセンス、個性、考え方などがあらわれます。

そこに、作品スケッチの習作や原案の下書きなども入っていれば、どんな考え方の変化で今日の作品へとたどり着いたのか、その思考プロセスも見ることができます。

■ ポートフォリオで「知の再構築」

プロジェクトの最後に「元ポートフォリオ」を再構築して「凝縮ポートフォリオ」をつくります。

そのとき、「情報の取捨選択力」「考えを論理的にまとめる力」「図、グラフ、ビジュアル文章などで思考を表現する力」などが身につきます。



< 再構築の3条件 >

- 1, 自分自身の考えであること
- 2, 根拠ある情報と概念図を含むこと
- 3, 現実に、こうすれば実行できるという「具体的な提案」であること

◆ 凝縮ポートフォリオ=他者に役立つ「成果物」

プレゼンテーションで終えず、最後に「他者へ役立つアウトカム」を生み出すということが未来教育の理念であり最も特徴的な点です。それは例えば、「防災ガイドブック」や「健康への具体的提案集」「こうすればものを大切に使いきれぬアイデア集」など提案型のアウトカムです。

人は他者のために働くとき、使命感や責任感を立ち上げ、成長します。

子どもたちも学習の成果として、貢献性のあるアウトカムを生むとき、高い知性や共感性を立ち上げ、能力も人間性も成長します。

■ ポートフォリオの効果と価値

ポートフォリオの効果は、資料の記録や保存にとどまるものではなく、これまでしてきたことを未来に活かす機能を持ち、学習や仕事の成果を上げるだけでなくより高い成長に役立ちます。

ポートフォリオはプロセスの可視化を叶えます。その人のコンピテンシーや人柄なども見出すことができます。

仕事や学習をしていく中で、日々の考えや獲得した情報などをポートフォリオに入れ、俯瞰しながら目標へ向かうことでよりクオリティの高いアウトカムを生むことができます。

これらの機能を活かすことで、人材育成、目標管理、知の共有などに役立ちます。

<ポートフォリオが果たす効果>

- | | |
|------|---|
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none">○ 確実な目標達成をかなえる○ クオリティの高い成果を生み出せる |
| 評 価 | <ul style="list-style-type: none">○ 自己評価、多面的評価がかなう○ プロセスが見え具体的な評価や支援ができる○ 数値化できないコンピテンシー評価が可能 |
| 俯 瞰 | <ul style="list-style-type: none">○ 自分がしていることや学び全体を俯瞰できる○ 自分の成果や成長を客観的に見ることができる○ 全体をみる意識が身につき翻弄されない己をもてる |
| 可視化 | <ul style="list-style-type: none">○ 課題発見から課題解決の思考プロセスが可視化できる○ 「思考特性」や「行動特性」を見出すことができる○ 「知」を共有し「全体知・統合知」にできる |
| 再構築 | <ul style="list-style-type: none">○ やりっ放しで終えず、確実にアウトカムを生める○ 部分知を全体知にでき、「知」の体系化ができる |
| 自己認識 | <ul style="list-style-type: none">○ 自己管理、自尊感情、自己肯定感に有効○ 自分のビジョンを相手に伝えることができる。 |